

# 実は大阪生まれの大阪育ち 「THE ワイド」を支える日本テレビの「昼の顔」

——まず、アナウンサーのお仕事の  
内容を教えてください。

ニュース番組なら原稿を読んだり現地でレポートをしますし、情報・バラエティ番組なら司会・コーナー担当・ロケ、スポーツ番組なら実況をします。そのための取材や資料作りも、私たちの仕事ですその他にも局のイベントの司会やナレーション、それからもちろん私達も会社員ですので、書類提出やコピーなどの仕事もしますね。

普通の会社員と大きく違う点は、24時間いつも仲間の誰かが働いていること。早朝4時の生放送を担当しているアナウンサーは夜1時には局に来て打

ち合わせを始めますし、深夜番組担当のアナウンサーは夜3時くらいまで反省会をしているんです。だから、深夜に今から帰る人と今から働く人がすれ違って声をかけあったりしています。

——森さんは司会中心のお仕事をなさってるんですか？

現在は司会が多いですね。でも、それは担当した番組でどんな仕事が割り振られるかによって決まってくるものなんです。でも今後、番組制作のスタッフが私に任せたい、と思ってくれた仕事なら、たとえ全くやったことがない仕事でも期待以上の成果を出せるよう頑張りたいと思っています。

——アナウンサーというお仕事のやりがい  
は何でしょうか？

番組を見てくださる方はもちろんですが、制作した人・取材を受けてくれた人・共演する人などの気持ちを大事にして、この人たちのために今何ができるか考えて動き、それがうまくいったときにやりがいを感じます。

アナウンサーにもいろいろなタイプの人がありますけど、私は、自分が目立つ必要はないと考えています。アナウンサーは、あくまでも局の一社員で、「テレビに映っている、スタッフの一人」ですから。黒子のような感覚で、誰かの仕事をサポートできたらいいなと思っています。番組の制作スタッフは、情熱を傾けて取材し番組の放送に向けて準備をします。何日も徹夜して原稿や映像をまとめることもあります。アナウンサーは、それを視聴者に伝えるという仕事を彼らから任されているスタッフなんです。だから自然と、番組を作る仲間である制作スタッフの気持ちを考えるようになりますよね。

そして、制作スタッフが取材をするということは、当然取材された側の人も存在します。その人たちの気持ちも大事です。

それから、共演者のことを考えること。例えば「THE ワイド」で、草野さんがゲストに話を聞いている時にニュース速報が入ったとします。スタジオには、私たちの正面にテレビモニターが置いてあって、その画面に速報も出ますが、家で見ているときのように「ピンポンピンポン」という音はなりません。だから、話している人の顔を見て話を聞いていると、画面に出た速報に気付かないこともあるのです。そんなときに、私が速報の内容を書きとめて、草野さんの手元にそっと差し入れます。速報などのチェックを私がすることで、草野さんにはゲストとの会話に集中してもらえないかなと思っています。

日本テレビアナウンサー  
**森富美さん**

大阪府和泉市出身。大阪大学文学部卒。1996年日本テレビにアナウンサーとして入社。現在、「THE ワイド」(月～金曜 13:55～15:50)「太田光の私が総理大臣になったら…秘書田中。」(金曜 20:00～20:54)に出演。また、「踊る!さんま御殿!!」(火曜 19:58～20:54)などでナレーションを務める。



## 「こういう時は森に任せれば なんとかしてくれる」

### ——生放送中のそのようなアクシデントの対処は大変ですか？

番組中、ディレクターが伝えなければいけない情報を紙に書いて持ってくる場合があります。まず、それに気づく必要があります。カメラやモニター、話している人だけを見ているのではなく、スタジオ全体に注意を向けておかなくてはなりません。私への伝え方もスタッフによってまちまちで、セットの裏を走って届けてくれる人や、書いたものをカメラの後ろから見せてくれる人もいます。どちらにしても、生放送中でいつカメラに写るかわからないし声も出せない状況なので、気にしなければいけないんです。届けてくれたものは、顔や体は正面に向けたままで手だけのばして取る、書いたものが読みづらいときはアイコンタクトで伝える、などです。スタッフとの信頼関係ができていなければうまくいかないものなんです。スタッフの方が「こういう時は森に任せればなんとかしてくれる」と期待してくれています。その期待にこたえることができた時「ああ、役に立てた…!」と大きなやりがいを感じますね。

### ——お仕事をしていく上で苦労なされたことは何でしょうか？

私は大阪出身だったので、最初は標準語がわからなかったんです(笑)。標準語に慣れることがまず大変でした。アクセントやイントネーションは比較的早く習得できます。でも、関西弁と標準語にはいくつか発音の違いがあって、その習得が難しかったです。正確な音を出すということと、その音を使う場面を体に覚えこませるんです。関東出身の人なら自然に言えるところを、大阪出身の私は、いちいち意識して言わなくてはいけないので慣れるまでに一年ほどかかりました。で

も研修期間は一年もあるわけではなく、早々に現場に行かされます。そこで正しい日本語が使えていなかったら、制作の人にも視聴者の方にも申し訳ないので必死でした。

## 正しい日本語の プロフェッショナル

### ——アナウンサーになったきっかけを教えてください。

私が今の職業についていたことには、阪大での勉強が大きく関係しています。まず私は高校時代に源氏物語の色見本に興味を持って、源氏物語を研究したいと思ったんです。そして著名な先生がいらっしゃった阪大に入ったんです。実家から通える距離でしたし(笑)。国文学がやりたいくて文学部国語国文学科に行ったんだけど、学科の名前の通り国語学の勉強もついてくるんです。そして国語学をやっているうちに日本語の起源や成り立ちを考えるのに興味が出てきて、日本語っておもしろいなと思うようになったんです。将来日本語を勉強していくのに、国語学者になるのもいいけれども、それよりはきれいな日本語・正しい日本語といわれるものに関してプロフェッショナルとして仕事をするのはアナウンサーなんじゃないかなと考えたんです。阪大に行って日本語という楽しみを見つけられたので良かったと思っています。

### ——阪大生時代の思い出を教えてください。

クラブとかサークル活動は家が遠すぎたので無理でした。アルバイトはしていましたよ。三年までは塾講師をしていました。でも、そのバイト仲間が、同じような大学に通って、同じように就職活動を控えた人たちだったんですね。それは、なんだかつまらないな、と急に感じたんです。どうせなら、大学では出会えない人と一緒に仕事ができ、しかも就職先とは関係のなさそうな種類の仕事をしてみたいと思って、他のバイトを始めました。

将来目指したい仕事があるからといって、その業界関係のバイトばかりやるのは一見夢への近道にみえますけど、視野が狭くなってしまおうと思うんですね。就職してからいくらでもその業界のことを深く知ることはできるので、学生時代はあまり短絡的思考をせずにいろいろやっておいたほうがいいと思います。

### ——学生時代の夢はなんでしたか？

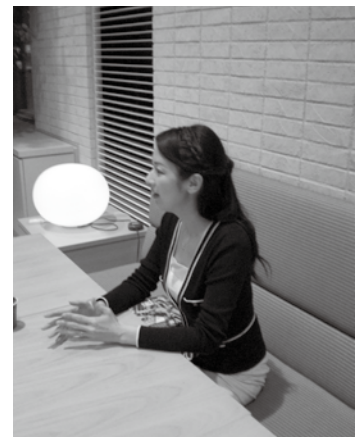
小さい夢というか目標はたくさんありましたよ。家族を大切にしたいとか、結婚したいとか(笑)。自分の人生を大きくわけて、大学生の私、アナウンサーを目指して入社するまでの私、アナウンサーになるまでの私…、いろんな時期の自分がいます。例えば大学生のときの私が今の私を見て、「嫌だな。こんなはずじゃなかった」と思われたくはないんです。そしてまた、カメラの前に立つ緊張感とか喜びを忘れてしまったら、それはアナウンサーを目指してがんばっていた自分を裏切ることになります。だから過去の自分の視点で今の自分を見て、大丈夫かなってチェックして、ときどき軌道修正したりしますよ。

### ——阪大生へ一言お願いします！

バイトのところでも言いましたが、大学生活というのは可能性の種をまく時期だから、色々なことにチャレンジして幅広く興味を持ってほしいですね。私が源氏物語を勉強したくて国文学科に行き、そこで日本語のおもしろさに気づき、アナウンサーという職業がみえてきたように、思わぬところに何か将来を大きく変えるものがあるかもしれないですよ。

大学生のあなたたちは、30歳になった自分を想像できないでしょ。でも30歳になる日は必ずやってきますから(笑)。そしてその30歳になった自分を創るのは、今の自分です。今やっていることは必ず将来の自分になんらかの影響を与えますよ。だから道を狭めてしまわないでいろいろなことに挑戦してください。

### ——ありがとうございました。



#### 取材

中塚(工・3) 米坂(基・3)  
増谷(文・2)